

会議等結果報告書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">会議</div> ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	1559
		決裁期日	平成27年 8月25日
名 称	平成27年度第1回安平町町民自治推進委員会		
日 時	平成27年7月28日 午前・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">午後</div> 18時30分～21時00分		
場 所	安平町町民センター		
会議概要	<p>1. 開会 委員20名中、16名の出席があり、条例第5条の会議開催条件を満たすことを確認。</p> <p>2. 委員長挨拶 時節柄お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。昨年度2月にこの委員会が立ち上がり、早いもので数か月経ちました。今日は、研究協議の中でグループワークも予定されていますので、活発なご意見をお願いいたします。</p> <p>3. 議事 <u>(1) 報告：町民参画の実施状況等について（資料1：事務局説明）</u> * 委員の皆さんには、資料1に掲載されている個々の事業内容の良し悪しではなく、それら事業を進める上で選択した町民参画の手続きの方法が適切かどうか、もっと良い手続き方法があったのでは、という観点で報告を聞いていただきたい。とは言え、委員の皆さんも点検の仕方やイメージの持ち方に実感がないと思う。今日の会議後半では、そうした委員としての観点や役割を実例から体験していただけるグループワークを予定しているので、ここではひとまず説明をお聞きいただければと思う。次回以降、活発なご意見をお願いしたい。（以降、資料1に沿って報告）</p> <p><u>(2) 研究協議：安平町まちづくり基本条例を読み解く</u> <u>①基調説明…「自治」と「情報共有」の観点から（資料2：事務局説明）</u> * グループワークに入る前に、どうしても押さえておきたいキーワードが2つあるので、それについて最初に触れておきたい。1つめは「自治」という最もベースとなる概念について、2つめは自治を進展させるために最も基本となる手段「情報共有」について、それぞれ資料2をご覧くださいながらお聞きいただきたい。 * 「自治」という言葉を辞書で調べてみると、「自分や自分たちに関することを自らの責任において処理すること」とある。これを私たち町民に置き換えれば、「自分たちの安平町のまちづくりは、自分たちの責任でやっていく」ということになる。まちづくり基本条例には、その自分たちの役割や責任についての基本事項が書かれている。 * 資料2の右下のイメージ図をご覧ください。3つの主体（「誰が」に当たる部分）がある。そして、3つの主体の主な役割がその四角の中に書かれている。まちづくり基本条例では、町民、議会、町がそれぞれの役割を果たしつつ、三者が情報共有をはじめ、町民参画や生涯学習を通じて、自治の質が高まるよう協働・連携しながら「自ら考え行動する町民自治を実現（条例第1条）」していきましようという構成になっている。 * ここで自治推進委員はと言うと、今説明したまちづくり基本条例に定められた仕組みがちゃんと機能しているか、見直しは必要がないかというチェックを役割としている。</p>		

* 「理屈はわかったがこれまでだってまちづくりしてきたじゃないか」「チェック機能は議会があるじゃないか」「役場の仕事の押し付けでは」などという声が皆さんから聞こえてきそうだが、そうした疑問へのお答えについては、資料2のQ1からQ4に記載している。(Q1～Q4をもとに説明：略)

* Q2のところで、社会環境が大きく変化を要因にこれまでのまちづくりの仕組みでは不十分になっていると言ったが、具体例で言うと、「そんなことが進んでいるなんて知らなかった」「役場が勝手に考えた」という声に代表されるように、従来のまま進めていては本当の声をつかみきれず、住民と行政の間のギャップが大きくなっているのが現状である。それでは本来の自治からは遠く離れるばかりであるため、まずは町民、議会、町の三者ができる限り情報を共有していこう、これまで以上に情報公開していこうという手続きルールなどを基本条例や関連条例では定めている。今後はこれまで以上に情報が手に入りやすく、町政が身近になることが期待できる。

* 繰り返しになるが、これまでの私の説明では、「自治」の理念をベースに、「情報共有」という方法を最初の切り口にして、これからのまちづくりを進めていくルールができたということを知っていただければと思う。

* 最後に、これらの条例はまだ安平町にとって初めて施行したばかりであり、完璧な条例ではない。まだ私たち役場職員も町民の皆さんとどういう形で情報共有するのが良いのか手探りの状況。委員の皆さんとともに育てていく条例だと考えていただきたい。

②事例研究

追分地区水道施設整備事業(案)における町民参画手続について(グループワーク)

* それでは実例をもとに委員の役割を実感していただくためのグループワークに入っていく。まず、題材とする水道事業について概要を説明したい。(資料3・4を用いて事務局説明：略)

* 続いて、グループワークを円滑に進め、全員が発言できるようにルールを設けたい。(議案14ページを用いて事務局説明：略)

【討議テーマ1】

水道施設整備計画(案)の町民参画手続の方法や結果について、どう感じるか?

(主な意見)

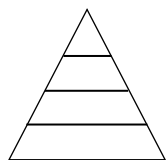
- ・大きな金額、計画すぎて、どう意見したらよいかわからない。
- ・パブリックコメントという方法自体が知られていない。高齢者には不向き。
- ・パブリックコメントは一般町民には意見提出しにくい方法。
- ・水道事業ほどの内容・規模に対して意見できるレベルにある町民はまずいない。
- ・このように決まるものと思っ込んで広報を読んではまっている。
- ・意見を求められているとの認識がない。
- ・生活に絶対に必要なインフラだから、やむを得ない意味での意見ゼロ。
- ・意見ゼロは、やむを得ないと思うのと、料金は安くないあきらめ感もある。
- ・基本的に行政がやることは無関心。
- ・意見がどう反映されるかわからない。だから意見を言っても無駄。
- ・広報を見てはいても自分のこととは思っていない。

【討議テーマ2】

生活上に不可欠な水道設備の整備計画だが、意見提出がゼロということは、町はどのように受け止めたらよいと考えるか?また、もっと適切な参画手法の選択はあるか?

(補足事項)

- ・これまでであれば意見が無いということは、町民は計画を理解していただけだと判断して、議会に計画や予算を提案する流れとしてきたことが多い。
- ・多くの事案では意見を持っているが言わぬ人が多数を占める。これをサイレントマジョリティー（物言わぬ多数派）という。この層の意見収集が難しい課題である。



- ①能動的に意見表明する人
 - ②意見はしないが能動的に情報を知ろうとする人
 - ③能動的にはアプローチしないが意見を持っている人
 - ④完全に無関心で、不満も意見も感じていない人
- ※①を頂点にピラミッド型に存在しており、②③の合計層が最も多数＝サイレントマジョリティー（物言わぬ多数派）

意見ゼロという結果の町の受け止め方は？（主な意見）

- ・公共性が高いインフラ事業だから意見ゼロは想定内のこと。
- ・ただし意見がないとは捉えてはいけない。
- ・やむを得ないという町民の気持ちがあることを念頭にこのまま進めてよい。
- ・今回の水道事業は生活に直結するライフラインだから必要なこととして進めてよいが、事業によってケースバイケースとなる。生活に直結しない町があえてプラスアルファでやろうとする事業は慎重に判断が必要。
- ・意見ゼロは町民参画が機能していない証拠。

もっと良い参画手法は？（主な意見）

【基本的な意見の求め方】

- ・意見を聞こうとするなら、もっと具体性のある設問が必要。
- ・意見を出す余地を明示することが必要。
- ・メリットとデメリットや選択肢を示せば、町民は意見表明しやすい。
- ・出した意見が反映される形を示せば意見は出てくる。

【情報発信の方法】

- ・広報記事の作り方を工夫して関心をもってもらうことが必要。わかりやすさ。
- ・凶面を使ったほうがわかりやすい。子どもや素人が見てわかる発信が必要。
- ・イベント会場や自治会などの場（すでにあるコミュニティ）を活用する。

【町民参画手続の形式】

- ・録音式のコールセンター方式であれば意見しやすいのでは。書面提出は敷居高い。
- ・役場に行って面と向かって提出はしたくない。知っている人には言いにくい。
- ・提出箱があれば敷居が下がる。
- ・アンケート形式であれば意見は表明しやすい。
- ・基本的には大事業には人が集まらなかったとしても説明会が必要。パブリックコメントは補完する程度の手法。
- ・サイレントマジョリティーから少しでも意見を収集するには、直接話をする機会をつくる必要がある。

【コミュニケーションの充実】

- ・役場と住民の信頼関係が成り立っていることが何をするにも大事。
- ・町政に関心をもってもらう方策が必要。それが日常から言い合える雰囲気。
- ・行政は素直に情報を出していくべき。
- ・無関心の町民が多いままではいけない。地域サポート制度などを切り口に、直接対話の機会をつくる。
- ・素晴らしい条例ができたのだから、行政も変わる必要がある。

③まとめ

- ・本日皆さんからいただいたご意見は、職員が使用するマニュアルに反映させたい。
- ・今後も住民と町の間の情報共有をいかに進展させるかという点を特に重視して委員会を進めていきたい。
- ・毎回ではないと考えているが、こういったグループワーク形式も取り入れながら、生きた条例に育てていきたい。

(その他意見)

- ・今後グループワークをするときは、事前にテーマを通知願いたい。
- ・今日は先日行われた道の駅の説明会について話すのかと思っていたので残念。
- ・このようなグループワークだとみんなで話ができて良い。
- ・他班で出された意見をまとめたもの（あるいはワークシートを撮影した写真でも良い）を後ほど送って欲しい。

4. 閉会